

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さくら荘
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	泉南市新家3566-4
記入者名 (管理者)	南 貞子
記入日	平成 20年 6月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>3項目の独立理念を掲げ、サービスの提供を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳を守る。 ・自由な生活の意義 ・プライバシーの尊重 	<p>現在のところ、見直す必要はない。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日欠かさず、朝礼にて唱和し、1日の始まりとしている。職員全員が理念を踏まえた介護計画書に基づくサービスを提供する事で理念の実践を行っている。</p>	<p>理念を踏まえた介護計画書に基づくサービスを受けておられる利用者様が実践にどのように感じておられるか、ご家族様からの話を伺ったり、又カンファレンス等で把握したりしながら、常に情報収集を行い、理念の実践に取り組んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は、来訪者の誰もが目につきやすい玄関正面に掲げており、当ホームの姿勢を表している。日々のサービスは、その理念に基づいた介護計画書に沿っていて、ご家族様には充分ご理解頂いている。</p>	<p>地域社会への理念の浸透については、今後益々、地域活動への積極的な参加により、図っていく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム側から、積極的に声かけ、挨拶をするように努めており、明るい雰囲気のある事業所という印象をもって頂いている。門扉から玄関にかけても開放的な雰囲気になっている。</p>	<p>地域活動への参加、開放という視点から、隣近所の人にホーム側より積極的に挨拶、声かけを行っていて、日常的なつきあいに繋げている。又、地域の小学生や中学生の活動にも協力しながら、さらに積極的な交流を図っていく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>老人会等へのお誘いを受け、催し物にも入居者様の希望を伺い、参加させて頂いている。地元の人々との交流としても年間行事である夏祭りや餅つき大会等を開催し、当施設に地域の人々を招いている。</p>	<p>認知症の程度や身体状況等の理由を考慮し、参加できそうな地域活動の内容を検討している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地元の人々との交流として、年間行事である夏祭りや餅つき大会等を開催し、施設を開放し、地域の人々やご近所の独居老人等を招いているが、中々大勢の集まりには参加して頂けていない。</p>	○	<p>月2回ボランティアにより、粘土細工で作品を作っている。それらを活用した展示会等の催し物の計画をたてて、ご近所の方々や地域の高齢者をお招きする等して、独居老人の孤独感や社会に対する疎外感の除去に努めていきたいと思っている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>過去に何度か、外部評価を受審している。これまでも評価結果を踏まえ、職員同士で意見を出し合うことで、業務改善を行っている。自己評価も職員皆んなで実施し、業務を見直し、サービスの質の向上につなげる機会としている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見として、行政より地元の子供達との交流を図ることを指摘されているが、地元の子供達との接点がなく、希望はあるものの中々、指摘された内容を改善するところまで至っていない。</p>	○	<p>車イス等で散歩に出かけた時には、逢う人毎に声かけをしたり、挨拶したりしているが、地域の児童との交流とまでは進展していない。今後は、もっと積極的に交流の場をえられるようにしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議とは、別に年に4回市町村担当者と泉南市内各グループホームの代表者数名と話し合う機会があり、市町村と共に、サービスの質の向上、お互いのグループホーム同士の交流の場として、お互いの悩みや疑問などを聞いて、アドバイスを頂いている。</p>		<p>市町村と共に、各グループホーム同士の交流の場としてお互いの事業所の間で、入居さんが訪問しあえる場を提供しあっている。お互いの事業所を知り合う事で、互いにサービスの向上につなげていくことができる。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見制度を利用されている入居者さんが、2Fにおられる為、実践を通して学ぶことができています。地域福祉権利擁護については、府社協、一般主催の研修に参加し、勉強会などにおいて、職員も勉強している。</p>		<p>地域福祉権利擁護事業に関しては、利用されている入居者様がおられない。しかし、制度を熟知している職員が数名いるので、制度の対象となる入居者があれば、実践を通して、話し合いや学ぶ機会を設けていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の代表が、府社協主催の当関連法の研修に参加、勉強会において職員への水平展開をしている。さらに以前より、インターネット等で当関連法の情報を取得し、法令順守に努めている。又、社内研修においても、議題として取り上げている。</p>		<p>既に勉強会等で職員個人での意識は徹底しているが、言葉遣い等気づかない点があるといけないので、職員同士で不適切な言動がないか、常に意識をし、お互いに話し合い、防止に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>左記の通り、実施している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>常にコミュニケーションを図り、入居者の意見や不満等を聞くように努めている。又、問題提議については、その入居者を変え、適宜カンファレンスを行い、問題解決に取り組んでいる。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月1回の御家族様への報告書、又金銭については、個人ごとの金銭管理台帳を作成し、報告している。又、来荘時には個別に責任者が近況の報告を行っている。病変時には、その都度、報告している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ご家族様来荘時に、意見聴取が行えるよう積極的な声かけを行っている。併せて雰囲気づくりも大切にしている。カンファレンスにもできる限り参加して頂くとともに、玄関には、ご意見箱を設置し、又 苦情担当者を配置し、御家族様からの発信を受け止められる体制にしている。以上の内容については、月1回のミーティングにて職員全員が共用している。</p>		ご家族様が意見を言いたくも言えない遠慮がある場合を考え、言って頂きやすい雰囲気づくりの為、催し物等で更に交流を深め、気軽に発言して頂ける関係を今以上に構築していく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>月1回のミーティングでは、各職員個人が発言できる機会が設けられている。その議題については、ディスカッションをし、皆んなの意志統一のもと決定されている。議事録を設け、後日問題点がないか、再度確認することになっている。</p>		今後も同様に継続し、必要があれば、月1回の開催を待たずに、適宜ミーティングを実施していきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>行事内容や緊急時の対応の際には、職員の確保に努め、勤務調整を行っている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>管理者は、開設以来、異動や離職が現在のところはない。職員の退職については、最低1ヶ月前に会社に申し出るようにし、スムーズに異動等を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	府社協など開催の社外研修並びにホーム内での勉強会及び母体法人での合同研修により、学びの機会を確保している。外部研修参加後は、ホーム内での報告・勉強会を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交互研修を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回、忘年会を行っている。	○ 福利厚生の一環として、飲みニケーションも含め、ボーリング大会やスポーツ大会(運動会)等を企画して行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則において、ヘルパー2級・1級、介護福祉士、介護支援専門員等の資格手当を設けている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回、面談時より本人様からの要望をしっかりと聴き取り、ご本人様よりの聴き取りが困難な場合は、ご家族様より情報を得ている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテーク～入居に至るまでのご家族のニーズの変化も含め、十分な聴き取りを行っている。又、その意見も受容、援助内容に反映するように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時のニーズの把握に努め、当施設の対象となり得るか否かを判断し、説明を行い、入居当初の介護計画(暫定)を立て、同意を得ている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を経験して頂き、ご本人様、ご家族様双方、納得された上での契約となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の方々を家族のように思い、過去の生活歴より活躍の場を提供し、喜怒哀楽を共にする姿勢で、常に援助を行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、常に家族の方々と連絡をとり、ご家族の方と同じ方向性をもち、入居者の方々を支援している。	○	ご家族様との信頼関係をより築き、ご家族様が気軽に話ができる環境づくりを行っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が家族と入居者の良きパイプ役となり、互いの意見に耳を傾ける。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてこられたお友達への便りには、元気で過ごされている様子のお返事の支援、又面会時には、又のご来荘をとお介護職員も時折り、口をはさみ、楽しいひとときを過ごされている。	○	年間行事でもある夏祭りや餅つき大会等に友好関係である方たちへの招待状の送付も取り入れ、関係が途切れないように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ目標、目的をもって行えるレクリエーションや作業を取り入れ、時間の共有や達成感を味わえるように、日々のプログラムを考慮している。又、できない部分への援助を行い、職員が仲立ちをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、近隣の方々は立ち寄りもあり、退所後も人づてに、御礼の言葉を頂く時は、とても感激する。今後ともより一層頑張りたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを大切に、可能な限り希望に添えるように、スタッフ一同で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員で入居者一人ひとりの生活歴を把握し、できる範囲内での援助に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に介護計画を立て、実行している。認知症の症状や身体状況により、見守りながら、自立支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、職員同士で意見を述べ、より良い暮らしをして、頂くためのプラン作成をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジメントにおける一連の作業を実施し、その都度その人にあった介護計画の作成に努めている。又、状況に応じ、適宜計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の趣味、嗜好に関し、ご本人もしくはご家族様より、聞き取りは行っている。日々の生活状況や体調管理は、詳細に介護経過記録に記載し、介護計画の変更にも活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の要望に応じ、食事メニューの変更や個室内の家具の配置の変更等、より快適な生活、自立しやすい生活を目指し、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市民ボランティア(歌体操、粘土細工、三味線等)、介護相談員など定期的に訪問してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	各個人の必要性に応じ、他事業所のケアマネジャーに個人情報に配慮しながら、意見を求めている。医療保険を適用し、他のサービス事業所(作業療法)を活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働は、行っていない。しかし、運営推進会議のメンバーとして、地域包括支援センターの職員に参加頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を取り入れ、ご本人の病状や大著に合わせて、適切な医療を受けられるように支援を行っている。又、受診希望の医療機関があれば、ご本人、ご家族と相談し、迅速に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の価値観や生活歴を大切にして、個人に相応しい言葉がけや声のトーンにも気をつけ、対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員全員で個人の情報収集に努め、出来るだけ利用者様ご本人に選択してもらえるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にスタッフが動くのではなく、スタッフが入居者個人のペースを保てるように心がけケアしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は、職員やボランティアの方が来荘し、ご本人様のご希望を聞き、その都度対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の嗜好に合わせた献立を取り入れている。入居者の方が、十分に力を発揮できるよう、スタッフが見守り、出来る能力の継続に努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医との連携をとりながら、可能な限りご本人の望むような支援ができるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄ペース、サインを見出し、失禁前にトイレ誘導を行うようにし、個人の行動をスタッフが把握し、排泄の失敗へのダメージ軽減に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には週3回ではあるが、ご本煮の希望により、随時入浴できるようにはしている。又、入浴剤にも工夫し、温泉気分を楽しんでもらう。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にレクリエーション、散歩等で刺激をもって、楽しく過ごして頂き、夜間良眠して頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味や楽しみごとに合わせて、日々の生活を送れるように支援している。カラオケ、花観賞、家事仕事など		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、お小遣いを預かり、買い物に出かけた時に、ご本人に支払いを行ったりしてもらっている。来荘時には、ご家族様の方に金銭出納簿を閲覧して頂き、承認のサインを頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は、体調により、散歩に出かけたり、ご本人の希望されるときには、買い物等の外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設においては、外出レクにて、チューリップ園やビーチ散策等に出かけている。又、ご家族様と一緒に出かけられたり、家族が不都合な場合は、職員が外出の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族様の意向を聞いた上で、出来る限りの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、来荘者に対し、常に歓迎の姿勢で迎え入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当するか否か、カンファレンスで判断し、どうしても危険が回避できない方のみ、家族様と相談し、了承を得た上で、市町村の方へ「身体拘束に関する説明書」を提出し、ベッド柵を2本入れさせて頂いている。	○	危険を回避し、ベッド柵を外せるようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険を伴う場所のみ、やむを得ず施錠しているが、圧迫感のないように工夫し、スタッフが見守りを重視し、できる限り開放するように心掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に入居者の方の所在確認を行い、危険防止に努めている。又、予め危険物と予測される物の除去に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じた対応を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月1回、事故防止委員会を開催し、事故防止に努めている。記録ノートを作成し、全スタッフに周知している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員と連携をとり、急変時や事故発生時に備え、指導を受けている。マニュアルも作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、避難訓練を実施している。	○	消防署員立ち会い及び指導のもと、定期的に関係機関と連携をとり、定期的に開催を実施する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、ご家族様に現状を説明報告し、理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間での情報交換を常に行っている。申し送りノートを活用し、閲覧後は捺印し、情報を確認している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、薬の用法や用量についての理解に努める。	○	医療機関と連携をとり、入居者の体調に気を配り、服薬の支援と症状の変化に対応できるように、指導してもらう。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、状態に合わせた対応を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の意思に応じて、口腔内のケアの支援を行っている。又、定期的な歯科往診も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の栄養士の下、メニューを作成している。食事量、水分チェック表を作り、把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	月1回、感染症予防委員会を開催し、記録ノートを作成し、全職員に周知している。感染症マニュアルも作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に消毒等を行い、衛生管理に努めている。(まな板とふきんは、毎日ハイターにて消毒を行っている。)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、季節の草花を植え、訪問しやすい環境づくりに心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りを入居者の方々と作成し、入居者の方々が、居心地のよいように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	戸外のベンチ、玄関付近のソファ、ベランダ等、気のあった利用者様同士で過ごせる場所を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	危険を伴わない限り、ご本人の希望に沿うような居室づくりに 努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	こまめに温度調節を行っている。利用者様の自室のみなら ず、ホーム内の換気も一定時間ごとに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	要所要所に手すりを設置している。浴槽やトイレには、手す りの他、滑り止めや必要な箇所にイス等を使用し、自立に向 けた支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	利用者様自室には、目の高さに大きな表札を掲げ、自室が わかるような工夫をし、トイレや食堂等の表示も行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベンチ等を置き、外気浴やおやつ時に活用している。パー ベキュー等も行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者さんが在宅で生活されているのと同じように、さくら荘での生活も、活気のある生活を送って頂けるように支援してゆく。